
ぷちエロ小噺 お馬さん

高遠響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶちエロ小噺 お馬さん

【Nコード】

N7337S

【作者名】

高遠響

【あらすじ】

説明不要（笑）。妄想たくましく、むらむらと読んでいただければよ。

「ちょっと乗ってみるよ」

夫に言われて彼女は戸惑った。

「え、そ、そんなぁ……」

腕を引つ張られるようにして、しかし、いやいやながらも彼女は
またが跨る。

「なんか、ちょっと。……恥ずかしい」

足を大きく開いたあられもない格好に、彼女は羞恥で身体を固くする。

「いくよ」

夫の声と共に、彼女の身体はゆっくりと突き上げられる。

「あっ……ん」

緊張していた彼女の身体は、穏やかな動きに合わせて次第にほぐれていく。

「これって……いい……かも。気持ちいいわ……」

やがて彼女は少し大胆な気分になってきた。

「ねえ、もう少し強く……して」

幽かに上気した頬の彼女を見て夫は嬉しそうに笑う。

「よし！ じゃあ、これでどうだ？」

動きが大きくなった。

「っあ、そんな、急に……強くないでえ」

急に大きくグラインドされ、思わず彼女はのけぞった。激しい動き翻弄されていたが、徐々に動きに身体を合わせていく。

腰をくねらせ、身体をはずませ、彼女の額に汗が滲む。

「あああ……ん。あ、暑いわ。そろそろ……ねえ」

懇願するように夫を見たが、夫は悪戯っ子のような表情で彼女を見た。

「もうちょっと乗ってるよ。久しぶりだろ？」
そしてまた動きが少し大きくなり、彼女の動きも更に激しくなる。
髪が乱れ、汗ばんだ額に張り付く。
「も、もうもう駄目え、駄目なの！ ああ〜っ、お願い、何とかしてえええっつ……！！」

ようやく動きが止まった。彼女はぐったりとしていたが、よろめくようにソレから下りた。

「…もう、やりすぎよ。腰がガクガクだわ」

「いい運動になったろ？最近運動不足なんだし、いいじゃないか」
夫は楽しそうにニヤニヤ笑っている。彼女はふくれながら、今さつきまで自分が乗っていたフィットネス機器を見た。

『乗馬フィットネス機器

ジヨーバ（ナシヨナル）』

「買わないわよ、こんなの。どうせ三日坊主よ。それに……そんなモン買わなかったって、アナタが乗せてくれたらいいじゃない」
「嫌だよ、普段からお前の尻に敷かれてるのにさ。夜まで俺の上になりたいのか？」

夫婦は密やかに笑いながらフィットネス機器売り場を後にした。

了

(後書き)

ナシヨナルさん、すみません……。でもいまだに家電売り場でコレを見かけると笑ってしまいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7337s/>

ぷちエロ小噺 お馬さん

2011年10月8日21時44分発行